第４回教師みらいセミナーが開催されました！

令和８年度　第４回教師みらいセミナー
　１１月７日（土）　９：30～12：00　＠宮崎県立宮崎南高等学校
　◎内容
　　「宮崎の自然を活かした教育活動って何？ ～地球科学的に宮崎の自然を考える～」
　　・宮崎大学教育学部　講師　隈 隆成
　◎参加者数
　　会場参加　３１名　　オンライン参加　２７名　　計５８名









　今回のセミナーでは、大学での学びや自然科学の研究に触れるとともに、宮崎の自然を活かした教育活動について考えました。
　講話の前半では、自ら疑問をもち、現地での調査などを通して答えを探究していく大学での学びについて説明がありました。続いて、青島、高千穂峡、関之尾滝、鵜戸神宮などを例に、宮崎県の大地の成り立ちや地形の特徴が紹介されました。
　さらに、コンクリーションと呼ばれる地層からの産出物について、国内外の研究成果が紹介されました。巨大なコンクリーションはニュージーランドや秋田県の男鹿半島で知られていましたが、宮崎県のイルカ岬でも発見されたという話がありました。また、ツノガイの化石の周囲に炭酸カルシウムが集まる仕組みや、その形成過程を明らかにする研究についても説明がありました。
　講話の後半では、研究成果の社会への応用として、焼却施設における焼却灰の埋立て問題が取り上げられました。焼却灰からカルシウム成分が溶け出し、浸出水の処理が課題となっていることや、その対策としてコンクリーション化技術を活用する研究が紹介され、自然科学の研究成果が地域の課題解決につながることを学びました。
　「自然を活かした教育活動について考えてみよう」をテーマにしたグループワークでは、出身地の自然を題材に教育活動を考え、グループで意見を交わしました。発表では、田んぼの土の違いが農作物の成長に与える影響を調べたり、海岸の漂着ごみを題材に環境問題について考えたりする活動が提案されました。また、全員に共通して示された写真からは、青島の成り立ちや海の生き物、西米良村の川の特徴、霧島の火山と防災を学ぶ活動などが提案されました。標高による気圧の違いをポテトチップスの袋の膨らみで確かめるアイデアも発表されました。
　最後に、宮崎の身近な自然を通して子どもたちの科学への興味を引き出すことの大切さや、教師がすべての答えを知っている必要はないものの、ある程度の知識を身に付け、子どもたちが自分で考えるヒントを与えられるようになってほしいという思いが伝えられました。
　今回のセミナーは、高校生が大学での研究に触れ、地域の自然を教材として活かす視点や、子どもたちの知的好奇心を育む教師の役割について考える機会となりました。
　セミナー終了後の閉講式では、受講生を代表して田中芯さん（宮崎南高校）に、戸ヶ﨑教育学部長から参加証明書が授与されました。

受講者の感想より

○宮崎に住んでいたけど、鵜戸神宮の炭酸塩コンクリーションについて何も知らなかったので驚きがあり、身近に化石があるかもしれないというワクワク感を感じることができました。私は離島での実習を行いたいと考えており、宮崎と離島での地理的環境の違いや、自然環境を活かした学びについてより学びたいと今回の講義で感じました。

○宮崎の自然を生かした授業について農業とか稲作のことだと考えていたけど、同じグループの人との話し合いで新しい視点が見えたり自分の考えを深めることができて良かったです。隈講師の話も理系の内容で難しそうだなと感じていましたが実際に聞いているうちにどんどん興味が湧いてきて面白かったです。

○地学についてあまり知らなかったけど、教育や地域活性化につながるものだと思いました。どの分野でも地域のことや教育のことに活かせるのだと知り、自分も大学で専門的な分野を学んで、視野を広げたいと思いました。子どもの可能性を潰さないよう、自分の興味がないものでもいろいろな分野を学びたいです。

★教師みらいセミナーのページはこちら↓
https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/community/post-1.html